

育苗から田植えのポイント

- ◎がっちり苗に仕上げるため、「ハウスの換気」を徹底しましょう。
- ◎栽植密度 70 株/坪、植付本数 3～4 本、植付深さ 3cmとなるよう、田植機を調整しましょう。
- ◎活着後は 3cm程度の「浅水管理」とし、初期分けつを確保しましょう。
- ◎除草剤散布後 7 日間は「止水管理」とし、除草効果を安定させましょう。

1 ハウスの換気を徹底し、がっちり苗に仕上げよう

硬化期の温度管理の目安

日 中	25℃以下
夜 間	10℃以上

- ・日中のハウス内温度が 25℃以下となるよう、換気を徹底しましょう。
 - ・田植えの 10 日前からは、活着を良くし初期生育を促進するため、夜間もハウスを開け、苗を十分外気にならしめましょう。
 - ・第 1 葉鞘長 3 cmを確保したら、霜や強風の心配がない限り夜間も換気を徹底しましょう。
 - ・かん水は、早朝にたっぷり実施し、床土が白く乾いたら適宜かん水を行いましょう。かん水が多すぎると、根の伸びが悪くなるとともに、カビ等が発生し生育を阻害する危険性があります。
 - ・田植作業が遅れ、苗に肥切れの特徴がみられる場合は、1 箱当たり硫安 5g (窒素成分 1g) 程度を 500ml の水に溶かして追肥するとともに、葉ヤケ防止のためかん水して硫安液を洗い流しましょう。
- ※水稲育苗後のハウスで、野菜を作付けする場合、苗箱施薬剤は育苗ハウスから苗を搬出した後に施用しましょう。

2 荒代・代かきを丁寧に行い、水持ちを良くしよう

- ・現在ほ場で地震被害が確認されていない場合でも、近隣の農道などで亀裂や隆起がみられる場合は機械作業に注意しましょう。
- ・目視で確認できない亀裂等の発生も懸念されるので、すべてのほ場で畔塗を行いましょう。
- ・噴砂した砂は肥沃度が低いため、できるだけほ場全体に広げ、高低差をなくしましょう。
- ・土壌の隆起等によりほ場内に高低差ができている場合は、土が乾いた状態で均平作業を行いましょう。
- ・代かき前の耕うんは丁寧に行い、土を細かく砕き、水持ちを高めましょう。
- ・代かき前にはほ場内にトラクターの轍等で通水用の溝を作り、短時間ではほ場全体に水を回しましょう。
- ・ほ場に入水（雨水の止水や用水通水後に入水等）し、事前に漏水がないか確認するとともに、漏水がみられた場合は、漏水防止対策を講じましょう。
- ・水不足が懸念される場合は、水を無駄にしないため、代かきから田植えまでの期間をできるだけ短縮し、不要な落水をしないようにしましょう。

3 「田植機の適正設定」と「水管理の徹底」で初期分けつを確保しよう

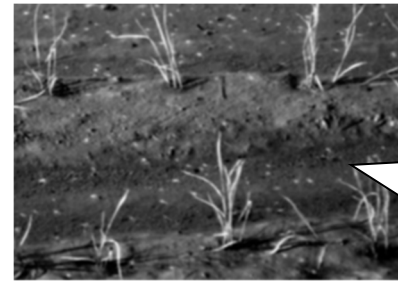
田植機の設定の目安

調整力所	設定の目安	目的
① 栽植密度レバー	70 株/坪	穂数不足の解消
② 植付深さレバー	「浅い」と「標準」の中間に下げる（目標 3cm）	初期茎数の確保
③ 苗取りレバー	「標準」より少ない方に 2 段階下げる（目標 3～4 本/株）	茎質の向上
④ 施肥ダイヤル	品種と肥料の仮比重、土壌種類から決定する	適正施肥量の確保

裏面に続く

- ・用水量が不足し落水せず田植えせざるを得ない場合、植付姿勢が悪くなったり、流れイネの発生が懸念されるので、田植機の作業速度を遅くしましょう。
- ・水不足が懸念される場合や田植作業が遅れ老化苗を植える場合は、穂数の確保が難しくなる可能性が高いので、栽植密度 70 株/坪を確実に入れましょう。
- ・田植時期が遅れる場合は、出穂までの生育期間が短く、緩効性肥料の溶出と合いにくいことから、分子栽培を基本とし、基肥量を慣行より減肥しましょう。

干し厳禁！



苗が植え傷むと、除草剤の葉害を受けやすく初期分げつの発生が悪くなります。

【田植後の水管理】

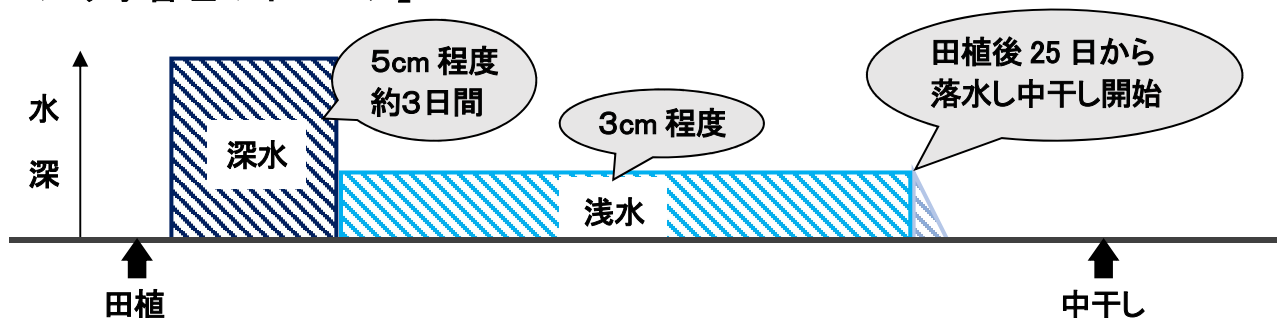
- ・濁り水が出ていないか、水尻は閉じているか、周囲の穴等から漏水していないか絶えず点検しましょう。
- ・苗を保護するため、田植後 3 日間程は稲が水没しない程度の深水管理としましょう。
- ・分げつと発根を促すため、活着後は日中止水で 3 cm 程度の浅水管理としましょう。

※田植同時で除草剤を散布する場合、田植作業時から水尻に板をあて、落水やかけ流しをしない。

- ・発根を促進し無駄な茎を整理するため、本格的な梅雨の前に遅れず中干しを開始しましょう。
- ・ほ場を干しすぎると水持ちが悪くなってしまうため、一回で干し上げるのではなく、その後の間断かん水を通じて徐々にほ場を固くしましょう。

【目安】	「てんたかく」	田植後 30 日後から
	「コシヒカリ」「富富富」	田植後 25 日後から

【コシヒカリ水管理のイメージ】



3 漏水がないことを確認し、除草剤は遅れずに散布しよう

- ・有効成分が流出しないよう、散布後 5 日間は湛水状態を保ち、7 日間は落水やかけ流しをしない「止水管理」とし、除草効果を高めましょう。
- ・中干し前に雑草の発生が確認されるほ場では、初期剤＋体系是正剤の組み合わせで抑草期間を長くしたり、田植同時ではなく田植 1 週間後に体系是正剤を散布することで抑草期間を後半に伸ばすといった対策をとりましょう。
- ・水の確保が難しく水深が浅いほ場や均平が不十分なほ場、減水深が大きいほ場では、ジャンボ剤や高拡散性剤の効果が劣るので、1 キロ粒剤を用いましょう。また、葉害の懸念もあるので、葉害の出にくい除草剤を用いましょう。
- ・水の確保が難しく湛水を維持できないほ場は、クリンチャーバス ME 等の茎葉処理剤の活用も検討しましょう。

☆ 被災状況の確認

- ・機械作業の前に、液状化や土壌の隆起、地割れ等の有無を確認しましょう。
- ・異常があった場合は、状況がわかるメモや写真等を準備し、下記までご連絡ください。
 農地・水路など・・・氷見市ふるさと整備課 0766-74-8091
 農業機械、施設など・・・氷見市農林畜産課 0766-74-8086

農作業安全のポイント ◇ トラクタや田植機からの転倒、転落防止のため、作業前に路肩や進入路の状況を確認し、安全対策（草刈り等）を講じましょう。